



担当：興水

織物文化を楽しく学べる教科書「ハタオリ学」を刊行

富士吉田織物協同組合（加々美好理事長/組合員：146名）では、地元の子どもたちが伝統産業の織物について楽しく学べる教科書として織物の技術や歴史をまとめた書籍「ハタオリ学」(B5判160ページ)を刊行した。

現在、多くのファクトリーブランドが集積する機織りの街（ハタオリマチ）である富士吉田市は、1,000年以上前の平安時代から織物の産地として知られているが、地域に根ざした機織りから、この街独自の面白さやそこから生まれる可能性に気がつくきっかけになればと組合員である地元の機織職人たちの発案で、書籍「ハタオリ学」は3年の歳月をかけて制作、本年5月に3,000部を出版した。

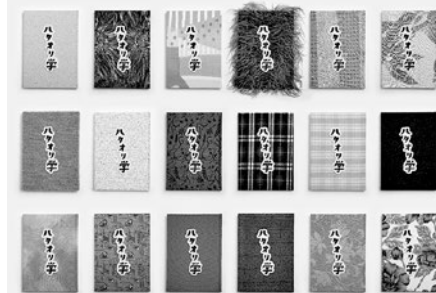
内容は、織り方の種類や工程といった基礎知識に加え、織物の名産地である富士吉田市のルーツなどを織物の視点から捉えた様々な「学びの入口」が盛り込まれ、本書は市内の小中高校へ寄贈され、高校生が地域



の課題解決について考える授業「富士山学」や、小中学生がふるさとについて体系的に学ぶ「富士山学習」の教材としても使用し、組合員である機織職人が学校を

訪れ講師として出前授業もしている。

また、市立図書館の蔵書として市民に広く貸し出されるとともに、要約版のミニブック2



展示予定の特別仕様「ハタオリ学」(織物製本)

万部が用意され、ハタオリマチフェスティバルなど各種イベントや組合が運営するハタオリマチ案内所、毎月第3土曜日に開催される織物工場見学会（オープンファクトリー）などで配布を行っている。

この出版に併せ、本の表紙にネクタイ地、座布団地、傘地など富士吉田市の織物を使った特別仕様の織物製本の制作も行っており、近日中に展示を行い一般に公開予定となっている。

「ハタオリ学」は、一般向けには、富士吉田織物協同組合が運営する「ハタオリマチ案内所」や、オンラインショップで5月16日から販売が開始されている。

価格は一冊3,960円(税込)